

に就学し氣勢一新の有様なり

○特選給費生 本大学卒業生にして學術の研究に従事せんと欲する者の為め特選給費生の制を新設し次学年より実施の筈にして主として本学年、学部及専門部の優秀なる卒業生中より選抜することとなるへし該規程の大要左の如し

(一)、特選給費生は大学院に於て研究するものとす (二)、研究年間は二ケ年以内とす (三)、研究期間は学資として月額金七十五円以内を給与す (四)、専門部卒業生にして特選給費生たらんと欲する者は英、仏、独語の内一國語の試験を受くることを要す

○新講座 既報の如く小仁所法学士は歐洲の大戦後に於ける財政と金融(英國の部)を開講せられ又本月よりは日本銀行調査局長堀越鐵藏氏は最近の金融を開講せらる

○冬季休業 本学年の冬季休業は學則に拘はらず十二月二十九日より本月六日迄にして来る七日より始業の筈なり

784 中央大学記事(中央大学始業後の状況・特選給費生・新講座・冬期休業・維持基金払込額及び氏名)

〔法学新報〕第34卷1(384)号 大正13年1月1日

○中央大学記事

○中央大学始業後の状況 去る十月末を以て罹災後の応急工事出来十一月五日より授業を開始するに至り総て予定の如く進行し十一月一日より検定を継続したる新入学者も同五日に満員と為り日々の出席学生数は罹災前に優る盛況にして何れも熱心

維持基金の払込のありたる額及其氏名左の如し

| | |
|-------------|--------|
| 金拾円(八六回分) | 稲田周之助君 |
| 金二千五百円(二回分) | 飯田延太郎君 |
| 金五円(七八回分) | 林 頼三郎君 |
| 金壹千円(三回分) | 馬場 鏝一君 |
| 金五円(一三五回分) | 西川 一男君 |
| 金拾円(八四回分) | 堀 竹雄君 |
| 金壹円(二七、八回分) | 富田勇太郎君 |
| 金貳円(九三、四回分) | 太田嘉太郎君 |

| | |
|------------------------|---------|
| 金貳拾五円（一五回分） | 梶尾 圓平君 |
| 金貳円（四三回分） | 吉田 久君 |
| 金九円（自四三回分 至四八回分） | 吉田 金司君 |
| 金七円（五四、五回分） | 高野兵太郎君 |
| 金貳拾五円（五回分） | 竹野竹三郎君 |
| 金五円（四回分） | 高木 信威君 |
| 金六円四拾錢（自六五回分 至六八回分） | 高木 三郎君 |
| 金七百五拾円（五〇回分） | 田中 文藏君 |
| 金壹円（八三回分） | 根津 千治君 |
| 金貳円（三八回分） | 熊谷 幸輔君 |
| 金七百五拾円（一一回分） | 二神 駿吉君 |
| 金壹円五拾錢（七六回分） | 遠藤 源六君 |
| 金壹円（七七回分） | 遠藤 武治君 |
| 金貳拾四円（五八、九回分） | 青山 衆司君 |
| 金壹円（八〇回分） | 阿部文二郎君 |
| 金六円（四回分） | 東 一雄君 |
| 金貳拾円（一一回分） | 淺野 三秋君 |
| 金五円拾六錢（五八、九回分） | 佐々木佐吉郎君 |
| 金壹円（五九回分） | 木村競次郎君 |
| 金四円五拾錢（自五二回分 至五四回分） | 水町 新三君 |
| 金壹円（八一回分） | 島田 鐵吉君 |
| 金貳円五拾錢（四八回分） | 島村他三郎君 |
| 金壹円（一二回分） | 杉 程次郎君 |